

第 1 回

紀の川市市章選定小委員会 会 議 資 料

日 時 平成 17 年 4 月 12 日 (火) 午後 2 時 ~

場 所 打田町保健福祉センター 3 階 大会議室

那 賀 5 町 合 併 協 議 会

第1回 紀の川市市章選定小委員会 会議次第

日時：平成17年4月12日（火）
午後2時～
場所：打田町保健福祉センター

1. 開 会
2. 委員の紹介
3. 事務局職員の紹介
4. 委員長及び副委員長の選出について
5. 委員長挨拶
6. 会議録署名委員の指名

-
7. 協議事項
 - (1) 市章の選定方法について
 - (2) 市章の募集方法について
 - (3) 市章の選考方法について
 - (4) その他

8. その他
9. 次回開催日程等について

____月 ____日() _____粉河ふるさとセンター 2階 視聴覚室

10. 閉 会

紀の川市市章選定小委員会委員及び事務局名簿

委 員

| 町 名 | 職 名 | 氏 名 | 備 考 |
|---------|---------|-----------|-----|
| 打 田 町 | 助 役 | 藤 永 知 宏 | |
| | 議 会 議 員 | 榎 本 喜 之 | |
| | 学識経験者 | 南 木 和 子 | |
| 粉 河 町 | 助 役 | 増 田 敏 郎 | |
| | 議 会 議 員 | 杉 原 勲 | |
| | 学識経験者 | 大 西 洋 太 郎 | |
| 那 賀 町 | 助 役 | 丸 井 幸 次 | |
| | 議 会 議 員 | 黒 田 七 郎 | |
| | 学識経験者 | 岡 田 邦 夫 | |
| 桃 山 町 | 助 役 | 千 田 弘 | |
| | 議 会 議 員 | 大 森 道 夫 | |
| | 学識経験者 | 津 田 愛 珂 | |
| 貴 志 川 町 | 助 役 | 武 部 善 次 | |
| | 議 会 議 員 | 竹 村 広 明 | |
| | 学識経験者 | 田 村 美 代 子 | |
| 特 別 委 員 | 和歌山大学講師 | 北 村 元 成 | |

事務局職員

| 職 名 | 氏 名 | 所 属 | 備 考 |
|-------------|-----------|---------|--------|
| 事 務 局 長 | 奥 谷 敏 夫 | 粉 河 町 | |
| 事 務 局 次 長 | 栗 山 房 大 | 桃 山 町 | |
| 総 務 課 長 | 石 脇 順 大 治 | 那 賀 町 | 開庁準備班長 |
| 調 整 課 長 | 狭 間 秋 友 | 貴 志 川 町 | |
| 計 画 課 長 | 岩 坪 純 司 | 打 田 町 | |
| 総 務 課 主 幹 | 半 田 雅 己 | 打 田 町 | 開庁準備班 |
| 総 務 課 長 補 佐 | 今 城 崇 光 | 桃 山 町 | 開庁準備班 |
| 調 整 課 主 事 | 國 部 毅 聡 | 貴 志 川 町 | 開庁準備班 |
| 開 庁 準 備 班 | 筒 井 勝 己 | 打 田 町 | |
| 開 庁 準 備 班 | 中 浴 哲 夫 | 粉 河 町 | |
| 開 庁 準 備 班 | 花 田 学 | 那 賀 町 | |
| 開 庁 準 備 班 | 吉 川 由 美 子 | 桃 山 町 | |
| 開 庁 準 備 班 | 田 村 圭 司 | 貴 志 川 町 | |

委員長及び副委員長の選出について

1. 根拠

那賀5町合併協議会紀の川市市章選定小委員会規程第4条第1項の規定に基づき、委員長及び副委員長を選出する。

(小委員会に、委員長及び副委員長を置く。)

2. 選出方法

那賀5町合併協議会紀の川市市章選定小委員会規程第4条第2項の規定に基づき、委員の互選とする。

(委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。)

3. 選出の結果

| 職名 | 氏名 | 町名 | 備考 |
|------|----|----|----|
| 委員長 | | | |
| 副委員長 | | | |

協 議 事 項

(1) 市章の選定方法について

公募方式

コンペ方式

委託方式

(2) 市章の募集方法について

(3) 市章の選考方法について

(4) その他

参 考 資 料

「市章選定方法について」

和歌山大学 UI・広報担当

北村 元成 先生

市章策定段階において、まず選定方法として一般的に募集する「公募」やデザイン業者等に委託を前提とした「コンペ」などが考えられますが、それぞれのメリット、デメリットについて、紀の川市市章選定小委員会特別委員の北村先生から助言をいただいていますので、ご紹介します。

市章の策定にあたっては、様々な方法が考えられます。
それぞれの方法にはメリット、デメリットがあり、「予算規模」「期間」「運営体制」などを複合的に考慮し、適切な方法を選択することが求められます。

< 公 募 方 式 >

- (メリット) ・低予算 ・公募広報による広告効果
・選定にかかる作品数が多い ・市民参加 など
- (デメリット) ・長期間化 ・作品の質のバラツキ
・監修サイドの負担大 など

< 北村先生のコメント >

期間の長さは、広報期間や選定に時間がかかることから、コンペに比べて長期間になります。広報期間は募集が広範囲ほど長期間になります。
この場合メディアのスケジュールに従います。
また、選定も集まってきた作品のクオリティによっては、習作の時間がそれだけ必要になります。
一般的にコンペに比べて低予算ですが、賞金の額によって参加者、作品数、クオリティに違いが出てきます。公募でも賞金額が高額の場合はプロからの応募も多くなり、クオリティが上がります。
作品数も増え選択の幅が広がります。低額の場合はその逆となります。
公募の場合、最も危惧されるケースは、作品数が少ない、クオリティが低い、市を適切に表しているものがない場合です。
私が選考に加わった公募の中にも該当者なしというケースがありました。
これは、広報が行き届かない、参加者にインセンティブが伝わらない、新市のイメージ・情報が伝わっていない場合などに起こりえることです。
作品のクオリティは公募の範囲にもよる部分があります。
広範囲ほど作品数は増えクオリティが高くなる可能性があります。
ただし、広範囲ほど公募などの要綱に掲載する内容を吟味しなくては、新市のイメージや情報が適切に伝わりません。
逆に公募範囲が新市内の場合は新市に関するイメージや情報はあらかじめ備わっています。また市民参加というメリットもあります。

< コンペ方式 >

- (メリット) ・ 質の一定化・短期間策定可
・ 選定後作業(類似調査、マニュアル化)との連動性 など
(デメリット) ・ 公募と比較し負担増 など

< 北村先生のコメント >

作品クオリティは、コンペ参加業者の指定範囲でも水準の高さに差が出てくる可能性があります。

指定範囲を新市もしくは和歌山に限定するか、近畿圏、全国区とするかで、広範囲ほど水準は上がりますが、同時に高額になります。

大手広告代理店に依頼する場合は大きな予算が必要になります。

指定範囲を狭めるほど水準にばらつきが予想されるため、この場合は監修サイドでの指示・修正が必要になります。

また、市章のようなシンボルマークは、そのものの審美性も重要ですが、いかに納得されて使われるか、ということも重要になります。マークそのものの美的な判断も必要ですが、マークに至る理由付けも、以後納得して使っていくためには必要になります。

したがって、コンペ方式の場合はマークのみの提出ではなく、コンセプトや調査・分析を含んだプレゼンテーションによる選定をおすすめします。

このようなプレゼンテーションを要するコンペとなると、業者に負担もかかりますし能力も問われますので、参加できる業者もある程度限定されてきます。

コンペにかかる予算額やコンペ参加段階での準備金の支給等のメリットを与えることで参加業者数や作品・プレゼンテーションのクオリティが保たれると思われれます。

(例) 『作品プレゼンテーション方式』

新市章のデザインによる選定です。

(一般的なコンペはこの方式になります。)

- ・ 作品の提出による選定、プレゼンテーションを伴う選定、参加業者数によっては、この複合等の選定方法があります。

『事前プレゼンテーション方式』

- ・ 新市章のデザインによる選定ではなく、これまでの業績や作品のレベルから市章をデザインする業者を選定する方式です。

この場合、市章デザインに係る調査・分析の費用を集中できます。

また、1作品ではなく3作品を提出させ協議会で選考するなど方法も可能です。

ただし、新市章のデザインを見ての選定ではないので、正しくデザイン能力を判断することができるかが重要となります。

どの形式にもメリット・デメリットがありますが、監修サイド(私)としてフォローできる部分もあるかと思えます。

また、上記以外にも和歌山大学の学生に調査・分析・制作をさせてみるなど、いろいろな形式が考えられると思われれます(以前、和歌山市駅前のCI事業として雑賀孫市をキャラクターにしたマーク作成を行ったことがありました)。

いずれの形式においても重要となるのは、新市章が市民の納得した上で今後使用されるように、策定の段階において手を打っておくことかと思えます。

進行状況を報告することや、制作、選択への住民参加など、知らない間に出来ていたマークでは親近感がわきませんから、親しみを持たせる仕掛けは必要かと思われれます。

市章をはじめとするシンボルマーク及びCI事業は、よく家紋を例に説明されます。戦国時代では家紋は登り旗に使われましたが、これは戦場において敵と見分けるための識別標的役割を持っていると同時にこの家紋の旗のもとに集う味方の意志の高揚の役割も持っていたといわれています。

つまり、こういったマークというものは外部からの見た目・感じ方も重要ではあるが、内部からの見た目、思われ方も特に重要であるということです。

新市章が使いたくなる、つけたくなるものになるように最初の段階から意識的に仕掛けていくことが大切かと思われれます。

「町章」「市章」の募集方式と主な内容（先進事例）

| | 日高川町（和歌山県） | 京丹後市（京都府） | 吉野川市（徳島県） | 北杜市（山梨県） | 雲南市（島根県） | 志摩市（三重県） |
|-----------|---|--|--|--|--|--|
| | 川辺町・中津村・美山村 | 峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町 | 鴨島町、川島町、山川町、美郷村 | 明野村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、白州町、武川村 | 大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村、掛合町 | 浜島町、大王町、志摩町、阿児町、磯部町 |
| 募集方式 | 公募（条件付き） | 公募 | 公募 | 公募 | 公募 | 公募 |
| 応募資格 | 川辺町、中津村、美山村に住所を有する中学生、高校生及び3町村管内中学校、高校に通学する生徒 | 資格条件なし | 資格条件なし（複数可） | 資格条件なし（複数可） | 資格条件なし（複数可） | 資格条件なし（複数可） |
| 募集するデザイン等 | 新町のイメージにふさわしいデザイン 町旗、バッジ、封筒等にも使用できるデザイン 色は2色以内（地色の白は含めない） グラデーション不可 単色表現の場合でもイメージを損なわないこと | 京丹後市のまちづくりのキャッチフレーズにふさわしいデザイン 市旗、バッジ等にも使用できるデザイン 色は地色を含め3色以内（グラデーション不可） 単色表現の場合でもイメージを損なわないこと 自作の未発表作 | 吉野川市のイメージにふさわしいデザイン 市旗、バッジ、封筒等にも使用できるデザイン 色は地色を含め4色以内（グラデーション不可） 単色表現の場合でもイメージを損なわないこと 自作の未発表作 | 北杜市の将来構想に掲げたスローガンにふさわしいデザイン 市旗、バッジ、封筒等にも使用できるデザイン 色は地色は白（グラデーション不可） 自作の未発表作 | 雲南市のめざすまちづくりにふさわしいデザイン 市旗、バッジ等にも使用できるデザイン 色は地色を含め4色以内（グラデーション不可） 単色表現の場合でもイメージを損なわないこと 自作の未発表作 | 志摩市のめざすまちづくりにふさわしいデザイン 市旗、バッジ等にも使用できるデザイン 色は地色を含め4色以内（グラデーション不可） 単色表現の場合でもイメージを損なわないこと 自作の未発表作 |
| 応募方法等 | 専用応募用紙使用 記載事項 ・趣旨・住所・氏名 ・学校、学年・性別 ・電話番号 応募用紙は合併協議会 郵送は当日消印有効 | 専用応募用紙使用、専用紙以外の場合は15cm四方の枠内 記載事項 ・趣旨・住所・氏名 ・年齢・性別・職業（学校名）・電話番号 応募は持参、郵送 応募先は合併協議会、各町合併担当課 郵送は期限内必着 | 専用応募用紙使用、専用紙以外の場合は15cm四方の枠内 記載事項 ・趣旨・住所・氏名 ・年齢・性別・電話番号 応募は持参、郵送 応募先は合併協議会 郵送は当日消印有効 | 専用応募用紙使用、専用紙以外の場合は15cm四方の枠内 記載事項 ・趣旨・住所・氏名 ・年齢・性別・電話番号 応募は持参、郵送 応募先は合併協議会、各町総務課 郵送は期限内必着 | 専用応募用紙使用、専用紙以外の場合は15cm四方の枠内 記載事項 ・趣旨・住所・氏名 ・年齢・性別・電話番号 応募は持参、郵送 応募先は合併協議会 郵送は当日消印有効 | 専用応募用紙使用、専用紙以外の場合は15cm四方の枠内 記載事項 ・趣旨・住所・氏名 ・年齢・性別・電話番号 応募は持参、郵送 応募先は合併協議会 郵送は当日消印有効 |
| 選考方法 | 小委員会選考（4作品） 合併協議会で選定 | 小委員会選考（3作品） 合併協議会で選定 | 小委員会選考（5作品） 合併協議会で選定 | 小委員会選考（4作品） 合併協議会で選定 | 小委員会選考（5作品） 住民アンケート 合併協議会で選定 | 合併後に募集決定 |
| 賞金等 | 町章大賞1点（図書券） 入選14点 参加賞 全員 | 最優秀賞1点30万円 優秀賞3点以内5万円 | 最優秀賞1点30万円 優秀賞4点5万円 | 最優秀賞1点30万円 優秀賞3点3万円 | 最優秀賞1点10万円 優秀賞4点3万円 | 最優秀賞1点30万円 優秀賞4点5万円 |